

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1276450
園名	江東めぐみ幼稚園

## 1.活動のテーマ

<テーマ>

感触遊び

<テーマの設定理由>

子供達の普段の遊びの中で、「ブロックは硬くて色々な形がある」「ぬいぐるみは柔らかくてふわふわしているが目など硬い部分もある」など、素材の違いに興味・関心をもっていることが見受けられました。そこで、硬い・柔らかい・ムニユムニユ・つるつるなどさまざまな素材を使って感触の違いを楽しむ「感触遊び」をテーマに設定しました。身近な物から保冷剤、風船等を実際に手で触れたり、広い園庭でのボディペインティングを通じて多くの発見を得るとともに、遊びを通して子どもたちの創造力や感性を育みました。

## 2.活動スケジュール

6月 ①身近な物に実際に触って、感触を確かめてみよう

6月 ②保冷剤を使ってセンサーバッグを作ろう

7月 ③フィンガーペインティング

9月 ④紙粘土を使ってアクセサリーを作ろう

10月 ⑤センサープレイ

11月 ⑥プチプチの感触を楽しむ

12月 ⑦綿を使ってオリジナルの綿あめを作ろう

## 3. 探究活動の実践 <活動の内容>

・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・ぬいぐるみ・ブロック（ふわふわブロック、硬いブロック）・おままごと道具・保冷剤・おけ・スプーン・ジップロック・ビーズ・グリッター・ポンポン・テープ・机・イス・手袋・フィンガー用の絵の具・水彩の絵の具・ボディソープ・たまごパック・苺カップ・2Lのペットボトル・おたま・ボウル・ロール紙・板・タライ・紙粘土・型抜き・ストロー・割り箸・スパンコール・毛糸・ごみ袋・虫かご・シェービングフォーム・スポンジ・食紅・バケツ・スポイト・おさかなの醤油入れ・水風船・プリンカップ・はるさめ・バット・紙皿・プチプチ・綿・クレヨン

・活動内容と活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり

①教室内の「かたい物」「やわらかい物」を探し、実際に触れて感触を楽しむ活動を行いました。クイズ形式で問いかけ、宝探しのように取り組む中で、「これはかたいかな？」と友達同士で話し合う姿や、難しい友達に「一緒に探そう」と関わる様子が見られました。見つけると嬉しそうに知らせ、繰り返し触って確かめたり、物を交換して違いを楽しんでいました。

②保冷剤を使ってセンサーバッグ作りを行い、触感の違いを楽しみました。柔らかくなった保冷剤や凍った保冷剤に触れた後、ジップロックに保冷剤やビーズ、ポンポンなどを入れて制作しました。子どもたちは素材を入れることを喜び、完成後は友達と見せ合って遊ぶ姿が見られました。「ぶにぶに」「冷たいけどやわらかい」など感じたことを言葉にし、触り比べながら感触の違いを楽しんでいた。

③石けんを混ぜた絵の具でフィンガーペインティングを行い、手で触れる感触や色の変化を楽しみました。色水コーナーではカップやお玉を使い、ジュースに見立てた遊びも見られました。子ども達は手や紙、板に絵の具をつけて遊び、「見て！」と色の混ざりを喜んで伝える姿がありました。思い思いに表現し、感触や遊びの広がりを楽しんでいました。

④紙粘土に絵の具を混ぜて色付けし、スパンコールを加えてアクセサリー作りを行いました。こねる中で色の変化や柔らかさを楽しむ姿や、手が汚れることに戸惑う様子も見られました。キラキラした素材に興味を示し、「もっと入れたい」と喜ぶ子ども達。型抜きや穴あけでは、自分なりに工夫して取り組み、完成を楽しむ姿が見られました。

⑤氷・泡・色水・はるさめの4つのコーナーでセンサープレイを行いました。子どもたちは興味のある場所を選び、集中して遊ぶ子や様々なコーナーを巡る子など、それぞれの楽しみ方が見られました。「つめたい」「ふわふわ」「つつつ」など感触を言葉にしなが、見立て遊びや色の変化を楽しみ、友達同士で関わり合う姿が見られました。

⑥プチプチを使い、潰したり寝転んだりして様々な感触遊びを楽しみました。最初は潰すことに苦戦する子もいましたが、コツを掴むと友達同士で教え合いながら音や感触を共有していました。裸足で歩いたり転がったりする中で「気持ちいい」「道路みたい」と感じたことを言葉にし、嗅覚や聴覚も使いながら五感で楽しむ姿が見られました。

⑦綿に触れて感触を楽しんだ後、ちぎったり丸めたりと自由に遊ぶ中で、それぞれの発想が見られました。パステルで色を付けると「雲みたい」「綿あめみたい」とイメージを広げ、形を整える姿もありました。さらにグリッターで装飾すると喜びが高まり、友達同士で見せ合いながら楽しんでいました。







#### 4. 振り返り <振り返りによって得た先生の気づき>

活動を通して、子ども達が自分なりに気づきや発見を広げていく姿が見られました。かたい物探しでは、ぬいぐるみの口や目の硬さに注目するなど、大人では気づきにくい視点に驚かされました。保冷剤や絵の具、紙粘土など普段は使わない素材も取り入れることで、新たな感触や温度への気づきが生まれ、より意欲的に遊ぶ様子が見られました。また、スパンコールやプチプチ、綿など様々な素材に触れる中で、使い方を工夫しながら遊びを発展させ、「またやりたい」という声にもつながりました。講師の助言や環境構成により、子ども一人ひとりの個性や発想を引き出す活動ができました。